

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 2019年2月14日

【四半期会計期間】 第23期第2四半期（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）

【会社名】 株式会社ビューティ花壇

【英訳名】 Beauty Kadan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三島 美佐夫

【本店の所在の場所】 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

【電話番号】 096-370-0004

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

【最寄りの連絡場所】 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

【電話番号】 096-370-0004

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第2四半期連結 累計期間	第23期 第2四半期連結 累計期間	第22期
会計期間	自 2017年7月1日 至 2017年12月31日	自 2018年7月1日 至 2018年12月31日	自 2017年7月1日 至 2018年6月30日
売上高 (千円)	2,768,492	2,953,770	5,620,477
経常利益又は経常損失( ) (千円)	23,192	12,144	166,492
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失( ) (千円)	6,882	14,489	77,225
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	6,894	14,501	77,230
純資産額 (千円)	519,737	546,661	590,073
総資産額 (千円)	2,785,781	2,486,355	2,282,295
1株当たり四半期(当期)純利 益又は1株当たり四半期純損 失( ) (円)	1.70	3.58	19.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	18.7	22.0	25.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	39,138	29,771	239,912
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	22,916	48,665	23,571
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	140,689	120,507	384,316
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,097,545	874,658	772,659

回次	第22期 第2四半期 連結会計期間	第23期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2017年10月1日 至 2017年12月31日	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	9.65	3.22

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、非連結子会社でありました株式会社アグリフラワーの重要性が増したため、当第2四半期連結会計期間より、連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(2018年7月1日から2018年12月31日まで)におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続き、設備投資も増加するなど、緩やかな回復基調で推移したものの、米国の通商政策による貿易摩擦の拡大懸念やEU諸国の政治動向、新興国の景気減速懸念等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、コア事業(生花祭壇事業)での売上拡大、生花卸売事業における物流のサービス強化と高度化、管理部門の体制強化、周辺事業の水平展開等を重点目標とした、2期目となる中期経営計画に基づき、各施策を実行してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、2,953,770千円(前年同期比6.7%増)、営業損失は、主に生花祭壇事業における原価上昇の影響により、18,285千円(前年同期は20,880千円の利益)、経常損失は12,144千円(前年同期は23,192千円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は14,489千円(前年同期は6,882千円の利益)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、1,640,023千円(前年同期比1.3%増)と、第2四半期連結累計期間としては2期連続で過去最高となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の2018年7月から2018年11月までの売上高、取扱件数ともに増加傾向で推移しており、この数年の傾向につきましても、大都市圏を中心として葬儀単価は下落しつつも件数が増加し、売上は拡大している状況です。

このように葬儀業全体では市場は拡大傾向にあり、その中でも上述のとおり特に大都市圏において「家族葬」や「密葬」等葬儀の小型化とともに単価の下落傾向が続いておりましたが、今後は地方都市におきましてもこの傾向が徐々に顕在化してくるものと考えられ、その兆候は一部見え始めております。

このような状況の中で、当事業では、強みである機動力や顧客ニーズへの対応力を活かすべく、関東・四国・九州エリアへ新たに拠点を展開する等、積極的に各施策を実行し、一定の効果が顕在化した労務比率の改善に続き、仕入原価の更なるスリム化等にも取り組んでまいりました。一方で、当期間の前半につきましては、国内における天候不良の影響等による仕入原価の高騰並びに、上述の新規拠点開設に伴うコスト増加の影響もあり、営業利益は214,532千円(前年同期比18.3%減)となりました。

#### (生花卸売事業)

生花卸売事業は、連結子会社のマイ・サクセス株式会社において、同社への会社分割・事業承継以来、これまで進めていた業務効率化に加え、当社グループとしての更なる競争力強化を図っておりましたが、前期後半より奏功の兆しが見えはじめ、当期において顕在化いたしました。

この結果、売上高は923,090千円(前年同期比18.5%増)となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」(2019年1月)によると、2018年7月から2018年12月までの切花累計の取扱金額は30,615百万円(前年同期比0.7%増)、数量では439百万本(前年同期比2.2%減)と金額ベースでは横ばい、数量ベースでは減少の傾向にありました。

このような状況の中で、当事業では前期に引き続き、従来の生花卸売事業(国内流通)と生花祭壇事業とのシナ

ジー追求を図りながら抜本的な物流体系の改革へ向けた取り組みにも注力しているものの、当期間の後半において輸入卸売部門における利益率が低調に推移したため、その結果営業利益は6,472千円（前年同期比53.7%減）となりました。

（ブライダル装花事業）

ブライダル装花事業の売上高は、173,960千円(前年同期比2.0%減)となりました。少子化による結婚件数の減少と、「ナシ婚」ともいわれる婚姻届のみの結婚の増加等により、ブライダル業界の市場規模は縮小傾向にあるものの、晩婚化による結婚式単価の上昇や、ゲストハウス・ウエディングやレストラン・ウエディング等オリジナル挙式志向の高まりを背景に新規参入企業が増加するなど、未だ大きな市場規模が保持されております。このような状況の中、同事業を請け負う連結子会社の株式会社One Flowerでは、東京・関西・九州エリアにおける新規顧客獲得と商圈拡大、リテール部門での更なる売上増、及び販管費の圧縮・効率化策を実施しており、一部にその効果は出はじめ、営業利益は2,149千円(前年同期比327.5%増)となりました。

（その他の事業）

その他の事業は、システム開発事業、不動産管理事業、冠婚葬祭に関する企画並びにコンサルタント業務、就労継続支援事業、農業を行っております。当第2四半期連結累計期間においては、各事業ともに総じて堅調に推移したため、売上高は216,695千円（前年同期比12.7%増）、営業損失は19,041千円（前年同期は30,292千円の損失）となりました。システム開発事業は、葬儀関連会社に対する基幹システム、名札書きシステム及びモバイル端末を用いた電子カタログや建築事業者に対するCADシステムの開発を行っております。不動産管理事業は、不動産の売買や賃貸等の仲介及び管理を行っております。農業は、花卉の生産・販売を行っております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ204,060千円増加し、2,486,355千円となりました。これは主に現金及び預金、売掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ247,472千円増加し、1,939,693千円となりました。これは主に、短期借入金、買掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ43,412千円減少し、546,661千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ101,998千円増加し、874,658千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は29,771千円（前年同期は39,138千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失12,242千円、仕入債務の増加額113,874千円を計上したものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は48,665千円（前年同期は22,916千円の使用）となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出33,222千円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果獲得した資金は120,507千円（前年同期は140,689千円の獲得）となりました。これは主に、借入金の純増163,028千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2018年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,076,000	5,076,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	5,076,000	5,076,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2018年10月1日～ 2018年12月31日		5,076,000		213,240		133,240

## (5) 【大株主の状況】

2018年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
株式会社MMC	熊本県熊本市中央区	1,000,000	24.69
三島 美佐夫	熊本県熊本市中央区	707,400	17.47
能村 光勇	石川県金沢市	247,400	6.11
謝花 斉	沖縄県中頭郡北中城村	229,400	5.66
ビューティ花壇従業員持株会	熊本県熊本市南区流通団地1丁目46	139,300	3.44
三島 志子	熊本県熊本市中央区	120,000	2.96
畑 美智子	奈良県桜井市	84,600	2.09
株式会社河野メリクロン	徳島県美馬市脇町大字北庄562-1	68,800	1.70
尾崎 敬郎	岐阜県岐阜市	52,100	1.29
河野 通郎	徳島県美馬市	46,200	1.14
計		2,695,200	66.56

(注) 上記のほか当社所有の自己株式 1,026,552株(20.22%)があります。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2018年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,026,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,048,600	40,486	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	5,076,000	-	-
総株主の議決権	-	40,486	-

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

## 【自己株式等】

2018年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	熊本県熊本市南区流通団地1-46	1,026,500		1,026,500	20.22
計		1,026,500		1,026,500	20.22

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2018年10月1日から2018年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2018年7月1日から2018年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	772,659	874,658
売掛金	559,125	613,577
商品	19,331	23,536
仕掛品	2,518	3,900
原材料及び貯蔵品	29,921	44,435
その他	67,758	49,717
貸倒引当金	12,338	10,313
流動資産合計	1,438,976	1,599,512
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	485,735	521,436
減価償却累計額	231,820	241,201
建物及び構築物(純額)	253,914	280,235
車両運搬具	30,548	34,961
減価償却累計額	20,034	21,738
車両運搬具(純額)	10,513	13,223
工具、器具及び備品	163,216	174,269
減価償却累計額	147,209	142,527
工具、器具及び備品(純額)	16,007	31,741
土地	217,004	232,103
建設仮勘定	7,521	-
その他	11,065	15,042
減価償却累計額	5,373	7,278
その他(純額)	5,691	7,763
有形固定資産合計	510,653	565,066
無形固定資産		
のれん	10,626	5,313
その他	50,504	41,195
無形固定資産合計	61,131	46,508
投資その他の資産		
差入保証金	62,239	48,935
繰延税金資産	21,396	26,694
保険積立金	148,972	166,431
破産更生債権等	149,769	30,416
その他	31,978	16,271
貸倒引当金	142,821	13,481
投資その他の資産合計	271,534	275,268
固定資産合計	843,319	886,843
資産合計	2,282,295	2,486,355

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	159,065	272,940
短期借入金	100,000	170,000
1年内返済予定の長期借入金	331,955	297,667
1年内償還予定の社債	7,100	7,100
未払金	92,274	62,244
未払法人税等	27,211	12,775
賞与引当金	8,197	19,000
その他	239,516	210,262
流動負債合計	965,320	1,051,989
固定負債		
社債	28,700	25,150
長期借入金	595,214	759,530
リース債務	38,492	33,995
退職給付に係る負債	52,623	55,523
その他	11,869	13,505
固定負債合計	726,900	887,703
負債合計	1,692,221	1,939,693
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	142,056	142,056
利益剰余金	463,398	419,998
自己株式	228,633	228,633
株主資本合計	590,060	546,660
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	1
その他の包括利益累計額合計	13	1
非支配株主持分	-	-
純資産合計	590,073	546,661
負債純資産合計	2,282,295	2,486,355

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2017年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
売上高	2,768,492	2,953,770
売上原価	2,249,751	2,478,895
売上総利益	518,740	474,875
販売費及び一般管理費	1 497,859	1 493,160
営業利益又は営業損失( )	20,880	18,285
営業外収益		
受取利息及び配当金	156	31
受取賃貸料	1,058	1,261
保険返戻金	4,931	1,700
為替差益	2,927	1,940
その他	8,366	7,143
営業外収益合計	17,440	12,077
営業外費用		
支払利息	7,620	5,673
その他	7,508	263
営業外費用合計	15,128	5,936
経常利益又は経常損失( )	23,192	12,144
特別利益		
新株予約権戻入益	5,274	-
特別利益合計	5,274	-
特別損失		
固定資産除売却損	1,600	98
リース解約損	2,850	-
特別損失合計	4,450	98
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	24,016	12,242
法人税、住民税及び事業税	14,956	8,133
法人税等調整額	2,177	5,886
法人税等合計	17,134	2,247
四半期純利益又は四半期純損失( )	6,882	14,489
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	6,882	14,489

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2017年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	6,882	14,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	12
その他の包括利益合計	12	12
四半期包括利益	6,894	14,501
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,894	14,501
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2017年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	24,016	12,242
減価償却費	25,269	24,102
新株予約権戻入益	5,274	-
のれん償却額	10,109	5,313
貸倒引当金の増減額( は減少)	1,513	120,260
賞与引当金の増減額( は減少)	11,285	10,802
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	3,347	2,899
受取利息及び受取配当金	156	31
受取賃貸料	1,058	1,261
保険返戻金	4,931	1,700
支払利息	7,620	5,673
固定資産除売却損益( は益)	1,600	98
売上債権の増減額( は増加)	135,173	64,901
たな卸資産の増減額( は増加)	18,508	20,101
仕入債務の増減額( は減少)	142,303	113,874
その他	9,372	15,248
小計	68,309	56,819
利息及び配当金の受取額	158	14
賃貸料の受取額	1,058	1,261
利息の支払額	7,120	5,828
法人税等の支払額	23,267	22,495
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,138	29,771
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付けによる支出	16,651	-
貸付金の回収による収入	15,763	188
有形及び無形固定資産の取得による支出	14,231	33,222
保険積立金の積立による支出	17,459	17,459
差入保証金の差入による支出	2,085	3,394
差入保証金の回収による収入	6,816	3,520
その他	4,931	1,700
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,916	48,665
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	342,000	70,000
長期借入れによる収入	-	435,000
長期借入金の返済による支出	185,969	341,972
社債の償還による支出	3,550	3,550
配当金の支払額	-	28,791
その他	11,791	10,178
財務活動によるキャッシュ・フロー	140,689	120,507
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	156,910	101,613
現金及び現金同等物の期首残高	940,634	772,659
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	385
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,097,545	1 874,658

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間より、非連結子会社でありました株式会社アグリフラワーにつきましては、重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主なものは、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)
給料手当	153,139千円	161,480千円
退職給付費用	1,522千円	1,190千円
賞与引当金繰入額	3,342千円	5,747千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)
現金及び預金勘定	1,097,545千円	874,658千円
現金及び現金同等物	1,097,545千円	874,658千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2017年12月31日)

1. 配当金支払額

無配のため、該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年9月27日 定時株主総会	普通株式	28,791	7.11	2018年6月30日	2018年9月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル装 花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,619,583	779,132	177,563	2,576,279	192,212	-	2,768,492
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,794	421,545	2,009	426,349	2,261	428,610	-
計	1,622,377	1,200,677	179,573	3,002,628	194,474	428,610	2,768,492
セグメント利益 又は損失( )	262,672	13,966	502	277,141	30,292	225,968	20,880

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、不動産管理事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業並びに就労継続支援事業であります。
2. セグメント利益又は損失の調整額 225,968千円には、セグメント間取引消去27,928千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 253,896千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル装 花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,640,023	923,090	173,960	2,737,074	216,695	-	2,953,770
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,972	432,064	1,281	436,318	9,437	445,756	-
計	1,642,996	1,355,154	175,242	3,173,393	226,133	445,756	2,953,770
セグメント利益 又は損失( )	214,582	6,472	2,149	223,203	19,041	222,447	18,285

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、不動産管理事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。
2. セグメント利益又は損失の調整額 222,447千円には、セグメント間取引消去20,669千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 243,116千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( ) (円)	1.70	3.58
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	6,882	14,489
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	6,882	14,489
普通株式の期中平均株式数(株)	4,049,448	4,049,448
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年2月14日

株式会社ビューティ花壇  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石原 鉄也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石田 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の2018年7月1日から2019年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2018年10月1日から2018年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年7月1日から2018年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。